

第3回 市場小学校第二方面校開校準備部会会議録	
日 時	平成28年5月26日(木) 19時～20時25分
開 催 場 所	市場小学校 図工室
出 席 者 (23名)	佐藤部会長、武藤副部会長、畑委員、森田委員、大伴委員、神藏委員、岸委員、村田委員、丸山委員、佐野委員、谷委員、藪田委員、上遠野委員、菅野委員、秋本委員、益子委員、貴志委員、横田委員、川端委員、渡辺委員、室井委員、益田委員、青木委員
欠 席 者 (0名)	
開 催 形 態	公開(傍聴者3人)
議 題	1 通学区域案と分校案について
決 定 事 項	1 事務局から提示された、市場小学校第二方面校の通学区域案と分校案について、各所属団体に持ち帰り、意見を伺うこととする。 2 次回の部会では、分校案を採用するかどうかについて、審議する。
議 事	<p>1 通学区域案と分校案について</p> <p>(事務局)：(分校案に関する各種調査、市場小学校第二方面校(仮称)を分校と位置づけた場合の特色と学校運営の詳細について説明。)</p> <p>(委員)：基本的には分校案に賛成だが、本校と分校に分けた場合、通学区域で2校に分けるより職員の数が少なくなるということだった。その場合、現在例えば、高学年に担任が1人のところを、一部教科担任制を導入し、その他の職員をつけて全体をみる先生を配置するという話だが、それは臨時の職員で充当するということか。それとも、それに間に合うだけの職員を確保できるということか。</p> <p>(事務局)：学年付副担任という、学年全体を見渡す職員を配置するが、これは現在でも、小学校は原則、学級担任の先生がすべての教科を見ており、その他に特定の科目を担当以外の者が複数の学年にまたがって授業をもつ専科教員がいる。そういった部分の配置等の工夫で、学年付副担任の持ち時間を減らすような形をとって、全体を見渡していくということを考えている。現在、具体的な人数配置については、教育委員会内部で検討しているところで、正規で学年付副担任という部分については、現状の専科教員の人数の枠を含めた運用の中で対応ができるかと考えている。そこから先については、まだどういった形で配置をしていくか、これからも検討が必要になってくる。</p> <p>(委員)：5・6年生用の校舎のほうにそちらの先生を配置される、ということは、本校舎の1年生から4年生は、家庭科や音楽の授業があるが、専科の先生はいなくて、他の学年は担任の先生の数でびっちりになるということか。</p> <p>(事務局)：専科教員の配置についても、学級数等によって配置できる人数等が変</p>

わってくるので、学級数が多くなれば、その学級数に応じた人数は配置されるので、運用の工夫は必要になるが、その中で一定の対応はできると考えている。

(委員) : いろいろな問題はあるかもしれないが、私の所属する地域としては、なんとか分校案ということをお願いしたい。

(委員) : 私の所属する団体で二つの案に対していろいろ意見を聴取したところ、利害得失などを考えたものを踏まえた票も入れたところ、ほとんどの方が教職についていたことがなくて、教育の実態というのを必ずしも理解できているわけではないので、前回の資料を見ただけで、トータルでどちらがいいのかということは判断できないということだった。要は教育の質が維持できるのか、できないのか、逆に分校にしたほうが、教育の質が高まるのかどうか、というところが判断できなかった。その点に対して、学校教育のプロにぜひともお聞きしたい。

(委員) : 非常に厳しいところだと思う。本当に教育環境、質という点で今までと同じようなことでは、足したときの児童数は同じでも、別々の2校に分けてのほうが、学級数は増える。ということはそれだけ多くの手当てが入る。単純に教育環境だけでいえば、やっぱり2校になったほうが、今までと同じことをするのであれば、子ども達にかえす環境はいいと思う。ただ、もうひとつは、市場は今までのことを考えても、学校だけで子ども達を育てているのではないということ。地域が本当に子ども達を見ていこうということで、子ども育成会も組織していただいて、小学校だけではなくて、小中の9年間で子どもを育ていこうという取り組みもしていただいている。そういう地域とのつながりも考えて、人的環境も横浜市のほうで2校分とは言わないまでも、分校での取り組みをすることに関して、単純に1校分ということではなく、少しでも増やしてもらえるとということであれば、その中で本当に新しいこともやっていけるのかなとは思っている。そのためにも、教職員の意識改革も非常に進めなければいけない。同じことをやるのだったら2校にしたほうがいいが、これから学校は、これが市場の特色だということも考えつつ、行事から何から、新しいことを考えてやっていかなければいけない。そうなった時は、単純に今までと新しいことのどちらがいいと一概に言えなくなっている。同じことをするのだったら本当に2校のほうが絶対いいというのは確かだが、やっぱり地域のことも含めて新しいことをやっていくんだということで、分校だったら考えたいなと思っている。

(委員) : 教育の質がどうかということに対して、どういうものさしで計るかによって変わってくるので答えるのが難しいということですね。

(委員) : 教育の質というのは、やっぱり親としては学力というよりもその体力、情操面と同じぐらいすごく関心の高い部分で重要視したい部分だが、

	<p>もし分校体制で、先生方も職員室も2つに分かれる形になった場合に、例えばこのチャレンジをしているのは、全国では数校しかない、横浜市ではもちろん市場小しかない、日本でも何番目の規模の学校でということ、志の高いというか、能力の高いというか、そういう経験と意識のある先生を配置していただけるのか。</p> <p>(事務局) : 当然、教職員一人ひとり経験年数とか、指導力等、差はあるけれども、やはりこれだけのことをやるとなれば、横浜市としてもそれに対応できる人材を配置するという前提でいかなないとできないことだと思っている。正規職員を配置するという人事上の配慮の中で、こういう状況、環境を踏まえた配置をしていくということになるかと思う。</p> <p>(委員) : 今回出た、5・6年生が分かれるというのは、全国的に小中連携が学力の面でつながるような学習というのがあるなかで、本当にいいことだと思う。後は、頭の柔らかい校長先生を置いていただいて、ぜひ教職員の改革ができるくらいの学校をお願いしたい。</p> <p>(委員) : 方向性が決まればできることは協力して、今まで以上に小学校と中学校の連携を深めてやっていきたいと思っている。ただ、心配するのは、市場小は特別な事情なので連携が進むけれども、平安小も含めた市場中ブロックなので、市場中としてはどちらかに傾いてだけというわけにはいかない。だから、市場小でやった運用を平安小でも持ち込んで試してあげるような動きもしないといけない。ただ、特別な状況があるから市場小との連携が深まるのはしょうがないという見方もあるので、そうすると、バランスを保つのが中学としては非常に、ある意味難しい。でも想像すると様々な配慮をしなければいけない。</p> <p>(委員) : 中学校との連携強化ということだが、今、市場中と小学校といろいろ連携をしながら進めている活動に加えて、なにか連携強化をしていくというイメージがあるのか。</p> <p>(事務局) : あくまでもひとつの例という形になるが、例えば中学校の教員が小学校にきて授業を行うというようなやり方があるのではないかと考えている。</p> <p>(委員) : それは、今回の市場小の場合に限らず、全体的にそういうことが進んでいくという位置づけか。</p> <p>(事務局) : 全体としてどうかという部分については、現状ではまだ教育委員会として決まった方向性が出ていないが、現在の市場中ブロックという考えの中では、そういう取組が行えるのではないかと考えている。</p> <p>(委員) : 先進的にそこは取り組んでいくようなケースの地区になってくると。</p> <p>(事務局) : 先進的な取組ということで、これがうまく進むと、他の地域にも波及させていきたいということで考えている。</p> <p>(委員) : 一番分校にさせていただきたいという根本になっているのは、町内の中で通学区を分けられてしまったら、町内の活動がなにもできなくな</p>
--	--

ってしまうということ。この市場地区の親、育成会、全体のまとまり方は他とは違って、結構しっかりやっているので、ひとつの町内を分けるのではなく、分校にして学年で分けてもらいたい。さらに、できれば140年の歴史がある中で、6年生はこの市場小学校で卒業させてやりたい。10年で学校がなくなってしまうのがわかっていて、そこで卒業して、卒業したけれども、もう学校がないというようではかわいそうだ。そういうことを考えると、4・5年生が分校で、6年生は本校がいい。

(副部長) : 卒業式ができるかどうか、入りきれぬかどうか。施設面のところが一番のネックになるところだろう。

(事務局) : 中学校とのつながりという部分、あるいは一部教科担任制や授業展開等を考えると、中一ギャップの解消というような点も含めて、5・6年生が分校のほうが、教育的効果が高いと考えている。また、この分校制という形であれば、校舎がどこであれ、同じ市場小学校の子ども達、卒業の場所がこの校舎でできるか、あるいは入りきらなくて別の場所でやるのかに係わらず、市場小学校の卒業生という部分については変わらない。

(委員) : 入学式と卒業式については、二部制にすれば問題はクリアできるだろう。運動会については、校舎が分かれているから単純に本校と分校で別々に行うというのではなく、6年生までのつながりをもたせる運営をどのようにやっていくかが課題だと思う。運営に関しては、教員はプロなので、プロが指導すれば子どもたちや保護者が満足できるかたちにはできているが、観覧場所についても意見が出ているので、これをクリアするためには市場小ではできない。来年は市場中を借りてというかたちで行うことも考えている。日常的な1～6年生までの関わりが厳しくなる分、年にいくつかの大きい行事では交流させたいと考えている。

(委員) : 私の所属する地域では、分校の案でやっていきたいという意見を聞いている。今日の説明を聞いて、とにかくやったことがないことをやるわけなので、いろんなことが起きると思うが、そういうことは教育のプロである教育委員会や先生方にお任せして、我々地域は、難しいことがあれば相談いただいて、それに対して協力するのはやぶさかでない。

(部長) : 学校に関する先生への負担はもちろんのこと、通学路の問題だったりにしても、相当地域のほうにも負担があり、見守りの面にしても相当力を貸していただかないと大変だろうと思う。

(委員) : 他の自治体で分校の事例があるということで、市場小の分校についても先進的にかっこよく、いいことばかりのようだが、そうではない。先進的なことが単なる10年間でできるのか。そんなにすばらしい分校

になるのか。私は非常に懐疑的だ。学校が2つに分かれたからといって地域が分断されるとか、市場地区の地域の団結はそんなにヤワではない。だから、分校ありきではなく、学校教育法でも小学校は6年制が日本の基準なので、なぜ1年生から6年生までが一緒の学び舎で教育をやるべきなのか、その意味とか意義をもう少しそれぞれが自分のところで考えて欲しいと思う。市場小を分校にして、先進的な教育をするといっても、いきなり教育方針やあり方論について頭を切り替えて、そんなに弾力的な柔軟な頭を持って先生方が対応できるのか。転校する子どもはどうするのか。教育委員会は、こういった先進的な分校ができた場合の対応は可能なのか。たった1校のために教育方針だとか理念だとか小学校の概念だとか、そういうもののすり合わせはできるのか。こんなに簡単に決めていいのか。分校について今回の資料には色々書かれているが、どういうところが具体的に規則上の特別な事情に該当するのか。規則上と言う特別な事情というのはどういう状態のことなのか。

(事務局) : 規則における特別な事情というのは、想定していない事態という場合というように考えており、これについては、設置者、横浜市の判断によるというところで、関係機関にも確認したうえで、問題ないと考えている。

(委員) : 地域で散々もんでから、これは特別な事情にあてはまらないということで該当しないとなったらどうするのか。最初に該当するのかどうかちゃんと説明して欲しい。

(委員) : 事務局からの説明では、問題なしと説明されたので、問題はないと解釈して前に進めようと考えているが、特別な事情とは何なのか、例えば10年限定ということなのか、そういうことははっきりと書いていただいたほうが安心できる。横浜市が判断するとしても、特別な事情とはこういうことですよということは何らかのかたちで明示する必要があると思うので、次回までに事務局のほうで考えてきていただきたい。

(事務局) : 整理して、次回お答えする。

(委員) : 本日の資料を持ち帰り、意見を集約してくるが、次回、例えば多数決というかたちで決めるという前提で、賛成か反対かという意見を持ってきたほうがいいのか。

(部会長) : 集約できるところとできないところが色々あると思うが、最終的には部会で決める。

(委員) : 分校案ということで、私もそのかたちでみんなが平等になればいいと思っている。

(委員) : どこかで決を取らないといけない中で、それはいつやるのか。

(事務局) : 議論の進み方次第で、部会としてひとつの方向性が出ている、あるいは議論をし尽くしたというところで、何らかの決はとっていただきたい

	<p>い。教育委員会としては、かなり研究をして、今お手元にある資料の内容を出しているの、なかなかこれ以上のものを示すのは難しいと考えている。それぞれ皆さまは団体を代表してここに参加していただいているので、できれば次回、団体の代表として明確に意思を出していただければと思っている。</p> <p>(委員) : 決をとるにあたっては、賛成か反対か保留かの3つか。</p> <p>(副部長) : 賛成か反対かだ。</p> <p>(委員) : 賛成か反対かだけで決められたらどうにもならない。どちらかには決めなければならないが、そうであれば、最初から白紙に戻して、町内の分け方をもう一度最初からやっていただきたい。賛成か反対かの数だけで、町内を分けられたら困る。</p> <p>(事務局) : 開校準備部会で検討していただく内容は、通学区域案、学校名案、通学安全になっているが、今回は、通学区域をどうするのか、1つの市場小の区域で分校というかたちにするか、別々の2つの学校に分けるというかたちか、まずはどちらの制度をとるのかというのが、最初に決める内容になる。それから、通学区域で分けることになれば、どこで分けるのかはその先の話で、分校制ということに決まれば、1つの市場小のまま学年で分けるということで、具体的な分け方については、教育委員会としては5・6年生で分けることを考えているが、そういったところを今後詰めていくという内容の流れになる。次回で決めていただきたいのは、分校にするかしないかというところ。</p> <p>(部長) : それでは、第4回部会にむけては、今回出た意見と、事務局から提示のあった「通学区域案と分校案について」を再度、各団体持ち帰って、関係の皆さんに説明していただき、次回部会までに、意見や要望を取りまとめておいていただくようお願いいたします。</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 次第</p> <p>(2) 委員名簿</p> <p>(3) 席次表</p> <p>(4) 市場小学校第二方面校開校準備部会ニュース第2号</p> <p>(5) 通学区域案と分校案について(資料1～3)</p> <p>2 特記事項</p> <p>今回は、7月21日(木)19時から公開により開催予定。開催場所は、市場小学校。</p>